

令和3年度学校評価結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	太良町立大浦小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度はいずれの項目も、「おおむね達成」または「十分達成」であった。 ・学力の向上に関しては、国語の校内研究を中心として取り組み一定の成果を出すことができた。「話し合い活動」や「振り返り」を工夫し、教師の「マイプラン」を意識した取組を更に推進していく必要性を感じた。 ・心の教育では、いじめや問題行動の早期発見や早期対応についてチームとして対処した。今後更に人権意識を高めるとともに、更に自己肯定感や自己有用感を高めるような働きかけや手立てを考えていくことが課題となった。 ・本来学校が担うべき業務の充実及び精選のため、保護者や地域に移譲できる業務は移譲し、職員の負担軽減や業務効率化、時間外勤務時間の削減に努めてきた。今後も更に業務を見直したり、学校と保護者及び地域の役割分担を明確にし、積極的に業務改善を行うとともに、ブロック制やプロジェクト制を意識した「チーム大浦小」としての学校組織力の向上に努めていきたい。
2 学校教育目標	ひこぼえの心をもち、強く・かしこく・美しく生きる子どもの育成を図る

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①確かな学力の向上のため、日々授業改善に取り組み、児童が主体的・対話的に学び、自信をもって表現する態度の育成を図る ②児童の自己肯定感や自己有用感を高め、人を思いやる豊かな心やふるさと大浦を誇り-思う心を育成する ③児童自身の健康意識を高め、自ら病気やけがの予防に努めたり、何事にも粘り強取り組んだりして、健やかな体の育成及び自他ともに命を大切にす態度を育成する ④教職員のワークライフバランスの保持を、働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
(1)共通評価項目								
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・児童アンケートで「学校の授業がわかりやすい」と答えている児童は95%あり、約2%増加した。児童の学習に対する意識の向上や教師の授業改善の取組の成果だと考える。 ・職員アンケートでは、評価が2.9と変動がなく、コロナ禍ということで積極的に話し合い活動を授業の中に取り入れることが難しい現状による評価だと考える。しかし、92%が「大体あてはまる」と回答しており、意識して取り組むことはできたと考える。	A	・子どもたちにとって分かりやすい授業が第一であると思う。この項目の児童アンケートの回答も良好であり、今後も更に分かりやすい授業を工夫して行ってほしい。	学力PJ
	○自信をもって表現する子どもの育成	○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科の授業で「話し合う活動」や「振り返り」を設定する。	B	・児童用アンケートでは、評価が3.4と変動は見られなかったが、「よくあてはまる」と回答した児童は少し増加した。話し合い活動が好きで児童は多いが、全体の場での発表を苦手としている児童があり、考えを広げるまでには至らなかったと考える。友達との考えを聞くことはできるが、自分の考えと比べたり発展させたりできるようにすることが課題である。	B	・全校が集まるような発表会を参照してみると、堂々と発表できている児童が多くなるように感じた。友達との関わりの中で更に自信をつけたり、考えを深めたりできたらよい。	学力PJ
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立っている」の項目で肯定的な回答をした児童85%以上	・人権集会やほかほかの木、道徳に関するアンケートに取り組み。 ・QUアンケートに関する校内研修を実施する。	B	・アンケート結果によると、肯定的な回答をした児童が77.5%と、前回よりも5%上昇している。目標達成には至らなかったが、取り組みの成果は現れていると考える。 ・しかし、昨年度(95%)と比べるとかなり下がっており、学年毎の結果に偏りが見られる。そのため、来年度は学年別による対応ではなく、学校全体で取り組む活動を増やし、自己肯定感を高める経験をもとに設定していく必要があると考える。	B	・様々な点で、きめ細かに手立てを取っていると思う。生命尊重や思いやりの心を育てることは生涯にわたって重要なことであるので家庭とも連携し、取り組んでほしい。	心PJ
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価アンケートで、「まわりの人たちが、困っている人にやさしくしていますか」の項目で、肯定的な回答をした児童90%以上	・心のアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見に努めると同時に事業発生の時はチームで迅速な対応を行う。 ・担任と児童一人一人と話す「教育相談週間」を設定し、児童の状況の把握と信頼関係の構築を行う。 ・毎週木曜日の子ども支援連絡会を通し、教師間の児童の情報が共有かつ指導の統一を図る。	A	・肯定的な回答をした児童が92.5%で、年間を通して目標を達成することができた。 ・教師間で連携を取りながら取り組んだことで、いじめの早期発見、早期対応につながった。来年度も引き続き、同様の活動を継続し、いじめ防止につなげていく。 ・自己肯定感を高められるように、教師側から活動する機会を増やしていきたい。	A	・いじめの定義に則って対応をさせていただいたお陰で、大きな問題が起きたり、深刻な事案に至ったりすることがなく良かった。全部の先生方で情報を共有しながら、いじめを芽のうちに摘みよりにしてほしい。また、先生方から多くほめられることで自己肯定感も高まっていくと思う。	心PJ
○生活指導の徹底	○学校評価アンケートで、「大きな声であいさつ」「正しい廊下歩行」「無言そうじができる」の項目で「よくできる」と答える児童80%以上	・毎月クラスで「大きな声であいさつ」「正しい廊下歩行」「無言そうじができる」を反省することで、児童の意識の向上を図る。 ・全校朝会でも生活の話をする。また、定期的に放送でも、児童の良い行いを紹介する。	A	・アンケート結果によると、達成率が82.5%と、目標は達成できたが、中間よりも低い数値となった。原因として、低学年の自己評価の結果が下がっていることが挙げられる。生活リズムに慣れ、活発に活動する低学年児童が増え、自分の行動を冷静に判断することができるようになった結果だと考える。 ・全体的にみると、中間評価と同様の生活態度は落ち着いている。来年度も、引き続き同様の活動を継続していきたい。	A	・校外で本校の子どもたちと会うと、大変よくあいさつしてくれ、気持ちが良い。学校全体を見ても、落ち着いた雰囲気でも学習できているようである。今後も指導を継続してほしい。	心PJ	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●ひこぼえがんぱりカードで就寝時刻を守ることができていると答える児童90%以上 ●衛生検査で「朝食を食べてきた」と答えた児童95%以上	・ひこぼえがんぱりカードに各担任が必ず目を通し、必要に応じて指導する。 ・栄養教諭と連携し、食育指導を年3回以上行う。	B	・最終評価結果では「就寝時刻を守ることができている」と答えた児童は、83%だった。中間評価よりも改善傾向であるが目標に到達しておらず、今後も継続して指導していく。ひこぼえがんぱりカードでは、「早寝・早起き・朝ご飯」の項目を学校全体の重点目標に設定し、望ましい生活習慣の形成に向けて取り組んだ。12月の全校集会では、小学生に必要な睡眠時間や睡眠の効果について指導ができた。 ・今年度は栄養教諭と連携した食育指導はできなかった。来年度は、計画を立て実施していきたい。 ・衛生検査の結果から朝食の喫食率は、97.8%だった。望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成に向け、今後も家庭と連携していく。	B	・就寝時間については、家庭との連携が必要であるので、ゲームの時間なども関連させて指導を継続してほしい。朝食の喫食率は100%にしたところである。	体PJ
	○健康管理及び健康習慣の定着	○学校評価アンケートで健康管理のため自分で意識し、率先して手洗いうがい・歯みがきを行うことができたという児童を90%以上	・感染症対策も含め、日常的に意識して行えるよう、児童委員会やほけんだより、保健室前の掲示板を活用して啓発活動を行ったり、担任と養護教諭がTTで保健指導を行ったりする。	A	・児童の学校評価アンケートから、手洗いや手の消毒、歯みがきをしっかりとできていると答えた割合は、95%だった。養護教諭による校内放送での呼びかけや校内掲示等による継続した取り組みもできた。また、感染症対策として室内の換気を徹底し、保健委員会による放送や見回りチェックにも取り組んだ。 ・全職員とPTA役員、学校医が参加した学校保健委員会では、本校児童の発育や健康について情報共有を行うことができた。	A	・養護教諭を中心に感染症対策を十分に行ってもらっていると感じた。また、児童がマスク着用や手指の消毒などの感染症予防を自然に行えるようになってきているように思う。引き続き、取組を続けてほしい。	体PJ
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・自分の勤務状況を確実に把握するために出勤退勤カードの管理を確実に行うとともに、毎日予定ボードに必ず退勤予定時刻を明記し、実行する。 ・資料の事前配布やICTの活用により会議をスリム化し、会議の回数や時間を減らす。 ・毎週金曜日を定時退勤日として設定し確実に守るようになる。	A	・大きな行事の前などは超過勤務をすることもあったが、働き方改革の意識が浸透してきて、後半には月45時間を超える職員はなかった。 ・今後も、会議をスリム化したり、学校が担うべき仕事に専念できるように行事の精選や保護者・地域との役割分担の明確化を図りたい。	A	・先生方の仕事は「ここで終わり」というところがないので、熱心に仕事をされるとどうしても超過勤務になると思う。地域や家庭との役割分担が昨年度より進んだことは良い傾向である。先生方には健康第一に頑張ってもらいたい。	管理職
	○学校組織力の向上 ・ブロック制による学年経営 ・プロジェクト制による校務運営 ・各種主任、コーディネーターのリーダー性の向上	○「プロジェクトやブロック制を意識した業務ができた」と答える教員80%以上 ○「担当分野の内容改善を進んで行った」と答える職員80%以上	・ブロック主任、各職員は年間を通して日常的に情報の共有を行い、ブロック主任は、意図的・計画的に教育活動が行われるように進捗状況を把握する。 ・プロジェクトリーダーを中心として、毎月の取組での重点的事項について内容・方法の検討や改善を行う。 ・各担当の内容について、職員会議での提案や連絡会での連絡を欠かさず行い取り組む。	A	・職員アンケートの結果は今年度中間評価より0.2ポイント上昇した。各主任等を中心に全職員で協力して教育活動を行うことができた。若手職員の育成も視野に入れながら、今後も全職員がチームとなって取組を活性化していく。	A	・全職員が協力し合って教育活動に取り組んでいることが伝わってきて感謝している。若手の職員が増えているということなので、ベテランの先生の豊富な経験を伝えることも必要となってくるのではないかと考える。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援の関する専門性や意識が向上したと答える教員85%以上。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・子ども支援連絡会等で情報共有すると同時にケース会議を開催して個別の支援の対応を図る。	A	・毎回の子ども支援会議等を通して全職員で共通理解を固め、特別支援教育についての知識を深め実践につなげようとしたと答えた教員が90%であった。各自が高い意識を持って児童への対応をすることができた。	A	・特別支援教育に関する知識を深め、実践に生かすよう研修が行われているので、今後も取組をお願いしたい。	特別支援教育コーディネーター
	◎主体的・意欲的な態度の育成	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○自分の夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童80%以上	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・授業では必ず振り返りの時間を設定する。	A	・児童アンケートでは中間評価よりさらに向上し、約95%の児童が肯定的な回答をした。地域の方や保護者とも協力し、それぞれの夢や目標に向かって努力できるよう支援していく。	A	・児童アンケートの回答は良好であり、グロッキーな地域人材を活用した体験学習もよくできている。そうした体験を通して夢や目標を持つようになっていると思う。
●...果共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・全項目でAまたはBの評価となり、概ね計画通りに教育活動が実施できた。 ・学力の向上に向けて更に授業の工夫と改善を行い、児童の思考力・表現力を伸ばしていく必要がある。また、児童が自己肯定感を高めるような取り組み、支援を全職員で行っていくことが重要である。特別支援教育に関する研修も引き続き実施し、全職員が特別支援教育的視点をしっかりと持って教育活動に当たれるようにしたい。 ・業務改善、働き方改革については随分と進んできた。学校が本来担うべき事柄について更に精査し、地域や家庭との役割分担を進め、教員の負担軽減につなげたい。 							